Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-06

第7章 平成22～24年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

村井, 良介
板垣, 貴志

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,12(平成25年度事業報告書):37-38

(Issue Date)
2014-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005562

― 第7章 ―

平成22～24年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

(1) まちづくり地域歴史遺産活用講座

歴史文化を地域づくりに活用し、次世代に残していくためには、その担い手となる人材の育成が必須である。このため2010～2012年度の特別研究プロジェクトでは、その人材育成の取り組みの一環として、市民向けに、地域歴史遺産をまちづくりに活用するための基礎的な知識や技術を学ぶ「まちづくり地域歴史遺産活用講座」(以下、活用講座)のプログラム開発をおこなった。3年間で計8回の試行プログラムをおこない、プログラムの内容がほぼ固まったため、今年度からはそれにそって原則として年2回(学内1回、学外1回)、活用講座を開催することとなった。

今年度は学内での開催については、人文学研究科の公開講座としておこない、学外での開催については、兵庫県歴史文化遺産活用活性化実行委員会主催の篠山歴史文化ボランティア養成教室のなかに位置づけて開催した。それぞれの内容については下記のとおり。

① 学内

日程：2012年10月5日(土)・6日(日)
場所：神戸大学文学部Ｂ棟小ホール
主催：人文学研究科地域連携センター
共催：兵庫県教育委員会
後援：神戸市教育委員会・灘区

・10月5日(土)

10:00　開講挨拶・趣旨説明・事務連絡
10:10　地域歴史遺産とまちづくり(奥村弘)
11:20　地域歴史遺産活用事例の紹介(坂江渉)
13:10　参加者自己紹介
13:30　地域の歴史の見方・古代(古市晃)
14:40　地域の歴史の見方・中世(市沢哲)
15:50　地域の歴史の見方・近世(木村修二)

・10月6日(日)

10:00　地域の歴史の見方・近代(河島真)
11:10　災害から地域史料を守る(吉原大志)
13:20　歴史資料取り扱いの基礎Ⅰ(板垣貴志)
14:30　歴史資料取り扱いの基礎Ⅱ(板垣貴志)
15:30～16:00　アンケート記入
16:00　意見交換会
16:50　修了書授与・閉講挨拶

② 学外

日程：1月11日(土)・12日(日)・25日(土)
場所：篠山市民センター
主催：兵庫県歴史文化遺産活用活性化実行委員会
共催：篠山市教育委員会
協力：一般社団法人ノオト

・1月11日(土)

13:00　地域歴史遺産とまちづくり(奥村弘)
13:55　地域の歴史の見方・古代(古市晃)
14:50　地域の歴史の見方・中世(市沢哲)

・1月12日(日)

13:00　地域の歴史の見方・近世(前田結城)
14:00　地域の歴史の見方・近現代(河島真)
15:00　地域歴史遺産活用事例の紹介(坂江渉)
16:00　災害から地域史料を守る(吉原大志)

・1月25日(土)

13:00　市内村方文書を読む1(前田結城)
14:10　市内村方文書を読む2(前田結城)

(文責・村井良介)

(2)『神戸又新日報』の公開

昨年度までの特別研究プロジェクト「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業にて作成した『神戸又新日報』を、神戸市立中央図書館と神戸大学附属図書館にデジタルデータをそなえ、パソコン画面を通じて、市民および学生に公開した。公開に先立ち、6月20日に神戸市役所広報課にて記者発表を行ない、公開意義を説明した。

(文責・板垣貴志)

(3) 古文書解読初級講座

10月4日から11月29日にかけて計4回の日程で神

戸大学にて開催した。これまでの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、21名の参加者があった。講師は石川道子（神戸大学非常勤講師）が務め、おおむね好評であった。

（文責・板垣貴志）

― 第8章 ―
神戸大学附属図書館との連携

(1) 地域資料調査

昨年度に引き続き、人文学研究科院生で日本中世史専攻の山本康司君に文書の整理に当たってもらった。本年度もほぼ一年を通じて、社会科学図書館所蔵「摂津国八部郡花熊村村上家文書」の整理および目録作成を進め、目録および解題（山本執筆）が完成した。データは図書館に引き渡し、近日、同館HPのデータベースとして公開される予定である。また、村上家文書を含む、同館所蔵の古文書でかなり以前（記録なし）に神戸市文書館に貸与されたまま返されていなかった分が年度終盤に返還されたので、これらも直ちに整理を行い、すでに作成されているデータに加えた。

なお12月17日図書館と当センター関係者で協議を行い、今後も連携して、社会科学図書館所蔵の文献資料群を中心に整理作業を継続し、併せてデータの公開も漸次進めるとともに、展示などの形で活用を図っていくことも合意した。

（文責・木村修二）

(2) 震災資料の調査・活用

本学の「震災復興支援・災害科学研究推進室」からのサポート経費に基づき、災害資料学の実践的研究を附属図書館とともに行った。これは、火箸に本題震災被災地の各図書館による震災資料の収集・保存などの活動支援を含むものである。

11月22日に神戸大学統合研究拠点（ポートアイランド）にて開催された第2回震災復興支援・災害科学研究推進室シンポジウムでは、ポスターセッションにおいて、研究の内容と成果を展示した。

事業の総括として、2014年2月18日に、第3回被災地図書館との情報交換会（人と防災未来センター東館）を開催し、岩手・宮城の県立図書館および大学図書館、国立国会図書館、長岡市立中央図書館文書資料室からの参加を得て、阪神・淡路大震災の震災資料所蔵機関と意見交換を実施した。また、翌日の2月19日には、附属図書館震災文庫の見学会を開いた。　（文責・吉川圭太）

― 第9章 ―
地域連携研究

地域連携センター年報『ＬＩＮＫ―地域・大学・文化』

2013年11月30日付で第5号を発行した。特集Ⅰ「地域の歴史性・重層性と市民主体のまちづくり――新たな共同性を求めて」、特集Ⅱ「工藤敬一氏インタビュー――歴史学は地域とどう向き合うか」を編んだほか、論考2本、史料紹介1本、時評・書評・展示評を2本、フィールドリポートを2本、ＬＩＮＫを読むを2本などを掲載した。

特集Ⅰ「地域の歴史性・重層性と市民主体のまちづくり――新たな共同性を求めて」

・坂江渉・板垣貴志「特集にあたって」

・遠州尋美「『もやい直し』と『あるもの探し』――災害復興を支える共同性」

・大国正美「『大字誌』の限界と地域史編纂――中近世の本庄地域の「主体」をめぐって」

特集Ⅱ「工藤敬一氏インタビュー――歴史学は地域とどう向き合うか」

・市沢哲「このインタビューについて」